

66 ヨハネ 20 章 19-23 節

亡くなられたはずのイエス様がよみがえられ、「私は出会った」という知らせで興奮している弟子たち。そんな弟子たちが集まっていた日曜日の夕方の出来事です。

1、この時点では、弟子たちは「ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた」とあります。どうしてだと思えますか？ (18:25)

2、そんなところにイエス様が来られた…とあります。

・どこから入って来られたのでしょうか？

・それで「よみがえりのイエス様」は、どんな方だと言えますか？

※そのイエス様は、今でもその様なお方です。どこからでも入って来られる。あなたのすぐそばにおられる。見ておられる。聞いておられる。

3、よみがえりの主が来られた時、逃げて、裏切った弟子たちに語られた言葉がいくつかあります。それを書き出してみましょう。

① (19)

② (21)・

※イエス様を見捨てて、裏切って、逃げた弟子たち（弱さ、失敗だらけの弟子たち）を遣わすとよみがえりのイエス様は言われたのです。そうです、主はあなたや私たちをも遣わすと言われているのです。

◎そんなイエス様に会った弟子たちの反応はどのようなものでしたか？ (20)

4、その後弟子たちに息を吹きかけて言われた言葉があります。どのようなものでしたか？

① (22)

② (23)

◎さあ、イエス様のこの言葉は私たちにももちろん関係があります。一つ一つ自分に当てはめて考えてみましょう。

・自分は「聖霊を受けている（持っている）だろうか？」(使徒 19:2)

「その実感はあるか？」

※イエス様を信じて救われたときに、聖霊を受けますが、その確信を助けるのが「きよめ」の恵みです。「信じる信仰」でも中途半端でとどまっている時に、聖霊を受けている（持っている）実感が乏しいことになります。また「信じる信仰」と「実生活」が分離していて、日々の生活の中に「信じるイエス様（聖霊）」を伴わないときにも実感できないことになります。その中途半端な状態をきよめ、主と全く一つとするのが「きよめ」の恵みです。クリスチャンはみんなそれを求め、もっと父なる神、子なる神、聖霊なる神を身近に、もっと親しく、日々の生活の中で感じられるようになったらいいですね。それこそ主なる神の御心です。

◎自分は誰かの罪を赦しているのでしょうか？また、人を罪の赦しに導いているのでしょうか？

「赦すことが出来ない罪」があったら、兄弟姉妹たちと一緒に祈りましょう。(マタイ 6:14.15)

※「互いに赦し、赦され合う」ことこそがこの罪の世にあって幸いで、安心できる

社会を作ることが出来るのです。だからそこへ導くことが伝道、と言えます。イエス・キリストの十字架とよみがえりはそのためにあったのです。(ルカ 23:34) (マタイ 18:21.22) (IIコリント 2:5-11)

5、このところから神様（父、子、聖霊）はどのようなお方であるとわかるのでしょうか。